

# 令和3年度 学校評価結果報告

兵庫県立姫路特別支援学校

## 1 教育活動及び学校自己評価報告

詳細は別紙「令和3年度学校自己評価」に記載しているが、令和2年度から校務分掌を再編、評価項目についても見直しを行い、教職員の自己評価と保護者評価を数値化して比較・分析を行っている。本年度は見直し後2年目であるため、原則として昨年度とほぼ同様の項目で評価を実施し、かつ令和2年度の評価結果との比較を加え、経年変化を見るようにした。

### 各校務部の取組状況の補足

#### (1) 総務管理部

情報発信について、これまでの連絡帳による家庭とのやりとりに加え、学校通信の充実や電子メールを導入し配信した。学校WEBページをリニューアルし情報の更新を容易にするとともに、Gmailによる欠席連絡や健康観察に活用し、学校と保護者との連絡を密にする取組を行った。今後は、地域に向けた発信及び学校への理解が課題である。

PTA活動は制約が多く中止としたものもあるが、通信の発行は例年通り行った。本年度は県P連事務局を担当し、本部役員中心に全県対象に発信やオンライン型の交流を進めることができた。全県を通じた参考となる取組に関する情報を得られたことが成果である。評価結果はコロナ禍ではあるが上昇した。

#### (2) 教務情報部

学習指導では電子黒板やタブレットを活用した授業が始まり2年が経過したが、若い世代を中心に、全体に広がってきている。

教育課程の工夫は、基本的には特別支援教育の実体験を中心とした授業を中心に定着を深めているが、新学習指導要領に基づいた「教科」を意識した目標や組み立てを職員全体で考えていこうとしている。何を学んで、何ができるようになって、それが将来、子供たちの生活や仕事でどんな風に役立つのかといった視点を持った指導を考えていきたい。

人権教育については、これまでも性教育・情報モラル・望ましい人間性についての授業をしているので、引き続き行っていきたい。コロナウイルスの影響で、行事のみならず、歌が歌えない・調理ができないなど様々な制約があったが、与えられた条件のなかでより良い学習環境を整えていきたい。

#### (3) 進路指導部

進路指導方針の共有と徹底、生徒に必要な進路決定を目標に活動を行った。具体的には校務部会での情報共有と、学年会での説明を実施した。本当に大切な内容については、進路指導部長が学年会に出席して説明を行った。二者懇談および必要に応じて三者

懇談の実施により、生徒個々の目標・ねらいを設定し、個別に進路相談を実施した。

コロナ禍の状況において、実習・進路関連行事の中止があったが、予定していた必要なことは何とか実施できた。各学年における実習の意味等についての共通理解、また企業との結合実習に関する目的意識と情報の共有化のために、年度の早い時期に周知するとともに密なやりとりを大切にしたい。生徒の実体験を大切にしながら、関係機関と連携をとりながら前後の指導を丁寧に行い次につながる指導を行いたい。

#### (4) 自立支援部

県知研の自立活動部会の研修会をオンラインで実施し、本校の5年間の研究のまとめを発表し、各学部ともこれまでの取組を整理・研究できた。自立活動の時間における指導を各教科や合わせた指導にどのように取り入れて般化していくかを中心に取組んだ。指導略案に自立活動の中心的課題や個々の目標を書き込み、授業の中でその子の課題を意識して指導・支援できている。

教職員の専門性は個別研修のみならず、オンラインを活用し、年間5～6回の全体研修ができ、訪問学級・分教室も全体研修として同一テーマで参加できている。希望に応じた研修も実施できている。

交流及び共同学習は、播磨西地区全体での副籍も始まり、盛んに居住地校交流が進められており、地域の小中学校と連絡し合うことができた。オンラインの活用も、直接交流では保護者の参加が難しい場合の対応や、子供が集中できるなどのメリットがあった。高等部では姫路別所高校との交流もでき、よかったとの感想も見られた。

センター的機能は、コーディネーターが地域の学校へ行き助言しているが、不登校、進路の相談が多い。

個別の教育支援計画が次年度より県下統一となるため、一番大切な中心的課題の導き方について、保護者と一緒になって保護者・本人の願いを踏まえた計画になるよう研修を進めている。合理的配慮を明確にするため、関係機関・保護者との連携を密にし、子供たちが将来社会の中で充実して生きていけるように、学校で何をすべきかを一緒に考えていきたい。

#### (5) 生徒指導部

保護者評価は前年に比べ上がっているが、もっとできると思い改善点を挙げている。学校での実施教育内容についての意見から、連絡帳の記入をもっと具体的に進めていきたい。連絡帳は担任が一生懸命書いているが、自立活動に関するやりとりも進めていく必要がある。家でできること、学校でできること、家でも学校でもできること、学校以外にお願いすること等、情報共有しながら支援を進めたい。

外部との連携は、警察・カウンセラー・精神科医にアドバイスをいただいている。今後も連絡帳や面談を通じて家庭と具体的なことを話し合いつつ、情報を共有しながら進めていきたい。

#### (6) 保健安全部

健康教育・保健衛生の大きな目標「新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ」を掲げ、取

り組んだ。校内に第2・第3保健室を設置し、発熱児童を観察する場所を設けている。マスクができない児童生徒については、手洗い・換気の徹底、免疫力の向上に取り組んだ。手洗いは、年齢に合わせて手洗いチェッカーや子供たちが喜ぶ歌などで工夫した。高等部は「耳が痛くないマスクづくり」を実施した。給食は黙食であるが雰囲気の冷たさを和らげるために、郷土料理・他国籍・多文化の料理を紹介した放送を導入し、美味しく楽しんで給食の時間を過ごせるようにした。身体面のフォロー、心のサポートについても工夫していきたい。

心肺蘇生・AED研修は、消防署職員から保健安全部員が先行して研修を受け、その後、学部等ごとに4～5回で分散して実施した。今後はPTA・地域の人と一緒に実施できれば良いと考えている。次年度はコロナ禍で増加した肥満児童に対する健康教室（肥満予防、運動面・栄養面）を実施したい。

安全管理・安全教育は、火災・水害土砂災害・南海トラフ関連・地震災害に関する防災訓練を合わせて4回実施した。防災教育の一環として、非常食「救給カレー」の提供を実施し、子供たち、保護者からのコメントも良好であった。次年度はPTAと協力し、ペットボトルの備蓄等、緊急時に備えたい。本校は姫路市の指定避難所でもあるため、コロナ禍が少し収まれば、学校行事を利用して学校見学や避難場所等の見学をしてもらえるよう計画したい。

## 2 学校関係者評価より

学校評価の自己評価結果を受け、学校評議員の皆さまから貴重なご意見をいただいている。全てを記載することはできないが、主なご意見・アドバイスを下記にまとめた。

### (1) 情報発信・ICT活用に関して

WEBページのブログ形式はタイムリーに更新できることがよい。Gmail を使ったの欠席連絡は良いと思うが、チェックするだけでも負担と時間がかかる。できるだけ教員の負担にならない方法・仕組みを考えてもらいたい。

コロナの影響により、ネットワークを通じた会議や教育が進んだことは副産物と考えられる。導入せざるを得ない状況になったことで、いい方向に効果が出ている。ICTは学校も必要に迫られると進んでいくと思うが、今後はセキュリティ対策への知識の向上が重要である。

### (2) 教育課程に関して

教科指導（知的障害の教科のオリジナル）について理解し、子供の実態に応じて体験等をからめながら進めていって欲しい。現在キャッシュレスが急拡大しているが、お金の感覚がなくなり知らない間に大きなものを購入してしまったりする。実体験に基づいた話をしながら小中学校とは違う、一歩先を進んだ取組をして欲しい。

### (3) 進路指導に関して

キャッシング・ネットバンキングの利用においてトラブルになる事実がある。ひどい

場合は、自己破産であったり親が何十万と負担し返済するケースが見られている。インターネット上では簡単にお金を動かせるが、知識だけでそのリスクを学んでいないことが今後大切になる。学習指導要領の改訂により、金融・資産形成についての学習も大切だが、「借金をしない」ことを学校で教えて欲しい。従来、知的障害の方の就いている仕事は、単純作業や繰り返しが多かったが、コロナを機にAIやロボットに置き換わることが増えている。挨拶の練習・聞いたことをメモするなど、それが将来どう役に立つかを伝えて行って欲しい。

#### (4) 自立活動に関して

「自立」という言葉は、社会自立を含めた様々なものを活用して自己実現するということがメインであるため、辞書どおりの自立ととらえると、知的障害の子供たちにできるのかと思われがちである。したがって、考え方のベースをまず押さえておく必要がある。子供の「できない」ところに注意がいきまわると、良い点になかなか目が行きにくい。そのため、アセスメントする際に良い部分・頑張っているところを見ていく視点を常に持って欲しい。自立支援の「中心的な課題」は、表面的に見えていることではなく、その人の暮らしにくさや生きにくさの中心的な部分はどこなのかを見つけ、共有することはかなり難しいことではある。丁寧なアセスメント等、大変な取組だとは思いますが、その人のこれからの生活が豊かになるよう工夫して欲しい。

#### (5) 保健安全に関して

食えることが楽しみの方が多くいると思うので、いかに給食を楽しめるかという工夫には感心した。マスクができない人向けに、耳が痛くないマスクづくりは具体的で明確な視点である。

「学校の備蓄物資は何日分あるのか。家庭における備蓄・避難のアナウンスはどうされているか。」といった質問があり、学校における食料を含めた備蓄品はまだ無いが、今後、備蓄をする方向で考えていると回答した。特別支援学校でもあるため、同じものを備蓄して良いというわけではないので、それぞれの個に応じたものを持参していただき対応しようと考えている。